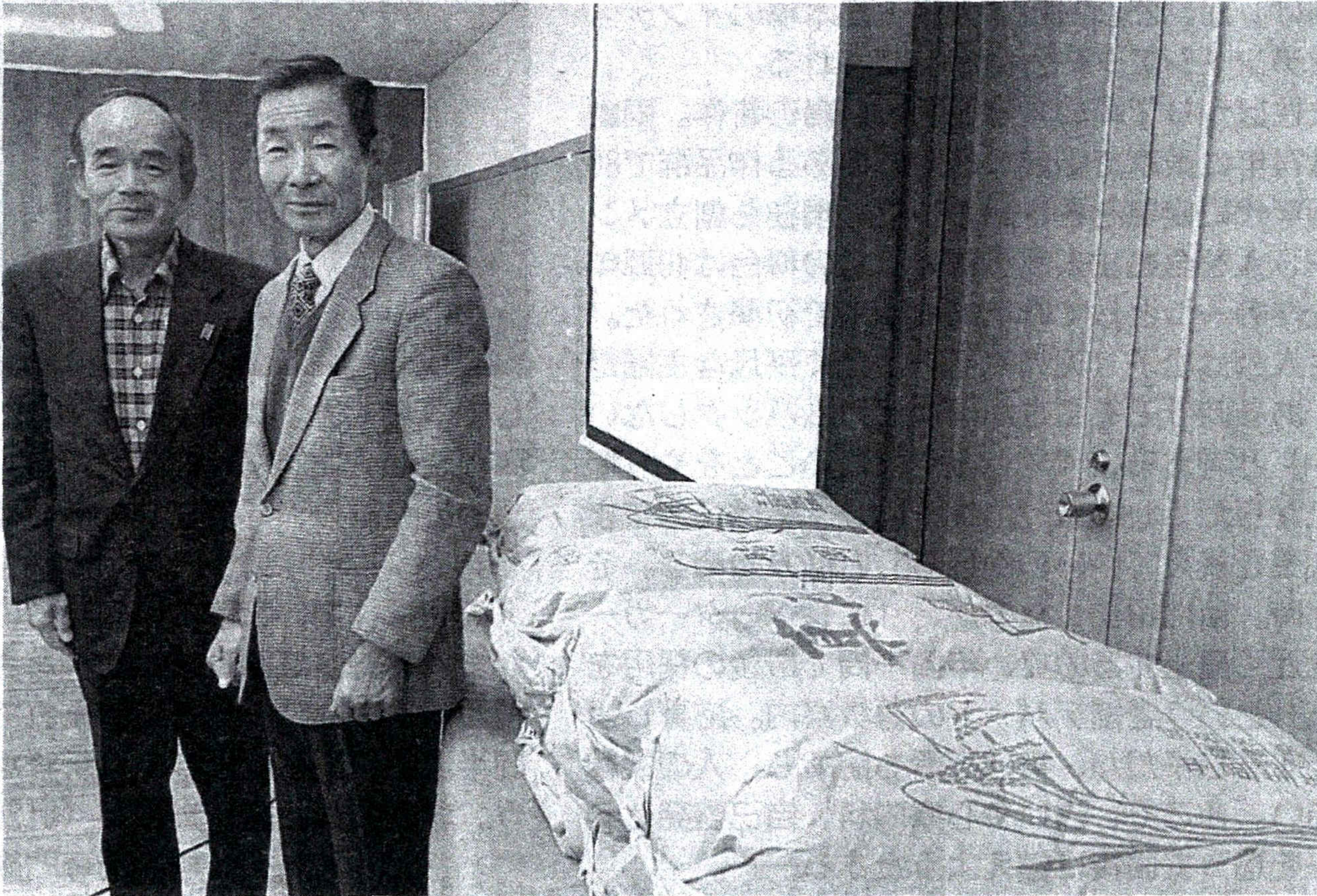


米と一緒に届け希望

たものの、継続した仕事に就けずに生活に困窮する人が目立つという。米をもらい受け、現地で路上生活者らを直接支援するNPOは「今日や明日を生きる希望も米と一緒に届けてくれている」と感謝する。【久木田照子】

東日本大震災

国際医療NGO「AMDA」(北区)に協力する県内の農家らでつくるグループ「AMDA支援農家」が2013年から、仙台市内の路上生活者らの支援のために米を提供している。同市では、東日本大震災の復興事業をあてに他地域から来



仙台に送る米を準備したAMDA支援農家のメンバー(北区で)

AMDA支援農家 仙台の路上生活者支援

仙台市で路上生活者の支援に取り組むNPO「仙台夜回りグループ」によると、同市内に現在、路上生活者は約1205130人おり、その日の収入次第でインターネットカフェなどに泊まって暮らす「予備軍」も500人を超えるという。

最近、増えているのが30代前後の世代。復興事業で行われる土木工事などに職を求めて各地から来たのに、短期間の仕事しか見つけられず、生活に困っていくといった人も少なくない。NPOの今井誠二理事長は「2次の震災被災者だ。こうした人たちが自力で生活状況を変えるのは難しい」と指摘する。

AMDAの呼びかけで13年に結成された支援農家のグループは、NPOから路上生活者の実体や活動に使う

米の確保が難しくな
た状況を聞き、毎年
米を送るようになった
という。農家グルー
は現在、AMDAと
海トラフ地震などに
えた食料の備蓄や発
時の被災地支援策を
える取り組みも行う
現地に届いた米は
定期的な炊き出しな
によって路上生活者
が口にする。食事を
供することで、路上
生活者がNPOのス
ツプらに生活状況や
みを話しやすい雰囲気
が生まれるという。

今季は、昨秋に穫された米を12月か発送。今後も順次送付け、計1・5トを供する予定だ。支援家の西村輝さん(53)「北区庭瀬Ⅱらは「米を通じて被災地とのつながりが続けたい。支援で学んだ経験は、将来の災害時に生きるは」と話している。